

＜参照3＞ 効果的な実践の例（抜粋）

（例①）生徒の主体性を重視した行事（特別活動）改善（児童生徒中心の学校づくり）

意識調査「みんなで何かをするのは楽しい」が高いという自校の強みを生かし、文化祭、球技大会などのあらゆる学校行事や活動での居場所づくりと絆づくりを重視した取組

「居場所づくり」の例

- ・ 合唱コンクールでの学級目標の設定
- ・ 練習ルールづくり
- ・ 役割の明確化
- ・ 生徒の記録を活用した振り返り
- ・ 練習の様子を通信、HP等での発信
- ・ 本日のMVP
- ・ 苦手意識のある生徒と得意な子のペア練習

「絆づくり」の例

- ・ パートリーダーを中心とした練習
- ・ 合唱コンクールノートを作成し、全員で取り組む
- ・ リーダー会の開催

- <効果>
- > 生徒主体の取組による行事の活性化と業務改善
 - > 友達の新たな一面の発見
 - > 集団で取り組むことの良さとおもしろさの実感
 - > 自己有用感、自己肯定感の高まり
 - > クラス、学校の一体感の醸成 など

（例②）校則の見直し（児童生徒中心の学校づくり）

生徒会役員の公約「校則の見直しを行いたい」を発端とした取組

- ・ 道徳の時間を活用したルールへの大切さの学習
- ・ 学級会での話し合い
- ・ 学年パネルディスカッション、全校パネルディスカッションを通じた協議

- <効果>
- > ルールに縛られるだけではなく、自らルールを守っていく意識の醸成
 - > 同じ生徒でも様々な考え方が存在することなど、多様性を認め合う集団づくり など

（例③）生徒指導の機能を生かした授業改善（学習指導と生徒指導の一体化）

授業に内在化した積極的な生徒指導を日常的に実践するための授業改善の取組

- ・ 生徒指導の機能（現行「提要」では実践上の視点）を活かした授業づくりのための職員研修の実施
- ・ 学習指導案の指導上の留意点に、生徒指導の視点を明記して授業を行うなど、学習指導と生徒指導の一体化を進める授業づくり 等

- <効果>
- > 子供同士の教え合いや学び合いなど、学習指導要領が目指す「主体的・対話的・深い学び」のある授業の増加
 - > 「授業がよく分かる」「授業に主体的に取り組んでいる」の回答割合の増加
 - > 取組を通じた共感的な人間関係の促進と児童生徒一人一人の自己有用感、自己肯定感の向上 など

効果的な実践の例（抜粋）

（例④）学級活動の活性化と日常の教科指導の見直し（学習指導と生徒指導の一体化）

長年取り組んできた学級活動を中学校区すべての学校で行い、児童生徒の主体的に取り組む力を伸ばすとともに、ふだんの授業にも児童生徒の話し合う場を多く設定するなどの授業改善への取組

- ・ 「学級会の進め方」の見直しと共通化
- ・ ふだんの授業でも児童生徒が主体的に話し合う場を意図的に取り入れた授業づくり

- <効果>
- > 自分たちの学校生活を自分たちの力でより良くしたいという意識（自治的能力）の向上
 - > 「授業に主体的に取り組んでいる」「授業がよくわかる」と回答した児童生徒の増加 など

（例⑤）教育課程の見直し（働き方改革と生徒指導の充実）

生徒と向き合うための学校改善の取組

- ・ 登下校時短の見直し
- ・ 月1回の「○○の日」（午後の部活なし完全下校、会議・研修もなし）

- <効果>
- > 始業前の教職員同士の情報交換の時間確保
 - > 教職員の自発的な学び合い
 - > 教職員、生徒ともに自己決定の場の提供による時間の有効活用の意識が向上
 - > 自己指導能力の育成 など

（例⑥）中学校区としての実践を行うための体制づくり（チーム学校の推進）

各校に「魅力」担当者を位置付け、オンライン会議システムも活用しながら定期的な協議の場を設定するなど、学校の枠を超えた取組

- ・ 「子どもの意識調査」の結果を持ち寄り、各校の課題だけでなく9年間を見通した中学校区としての課題を設定して実践
- ・ 小中学校の接点期を意識した「のりしろ」の取組による年1ギャップの解消
- ・ 児童生徒の学びの連続性、不安感へ配慮した共通共通の「学習のさまり」の見直し

- <効果>
- > PDCAサイクルによる生徒指導マネジメントの意識の高まりと取組方法の確立
 - > 担当者を中心としたミドルアップダウンマネジメントによる職場の同僚性の高まり など

まとめ

様々な実践を通じて、教職員の生徒指導に対する意識が変化（未然防止の重要性への理解）し、行事・授業等への取組方が変化した結果、学校が児童生徒にとって魅力的な場となったことで改善につながった。今後も早期発見、個別支援の充実に努めるとともに、改訂版『生徒指導提要』で示された発達支持的生徒指導による未然防止の取組についても充実させていくことが生徒指導上の諸課題の解決のために必須。